

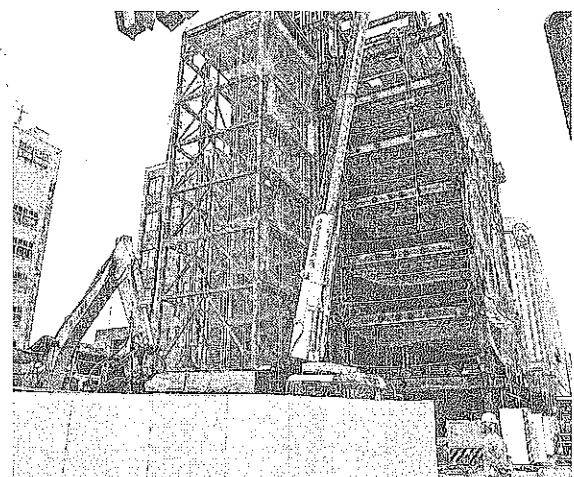
北陸3県の大手ファブリーケーター

北陸3県の大手ファブリーケーターは引き続き受注が堅調で、「毎日2〜3時間の残業が常態化」するなど、繁忙感が継続している。なかには「来年どこか再来年の話も来ている」ほどで、今後数年は忙しい状態が続く見通しだ。

全国ベースの鉄骨需要は、こうしたなか富山の大手フリーマンショックを受けた2アブでは「来年8月末までの009年度の400万ト割れ受注にめぐつき、予約を含をボトムにして、その後は徐々に回復。13年度はアベノミクスによる景気対策などにより540万トまで増えていた。

受注堅調続き 残業が常態化

これを受けて14年度も当初は同レベルの需要が見込まれていたが、職人不足による現場の遅れや「資材高」を背景とした新規案件の繰り延べなどが表面化し、最近では「540万トに届かず500万トを下方修正されている。



富山市内の鉄骨建方現場

めると年末まで引き合いがある。鉄骨需要は地域差があるが、首都圏では東京五輪案件が具体化しているため、関東物件を多く手掛けている北陸の大手ファブとして、鉄骨需要は引き続き堅調」と見込む。職人不足などで建築計画が繰り延べになるケースもあることについては「かえって仕事量の平準化につながる面もあり、鉄骨業界にとっては悪いことではない」（富山）との見解だ。

業でも大型投資がある。公共「鉄筋、型枠、嵩など建築現場では県のリハビリ病院や射水市の新庁舎が着工されている」（同）。
今後は「県の近代美術館や中央警察署の移転新築工事、中央病院の新棟、総曲輪西地区再開発ビル、LNG火力発電所など大型物件が出て来程への影響を最小限に抑えるよう留意していく」（同）ことについて。

また鉄骨の加工単価は「S造（コラム柱H形鋼梁）で首都圏向けは、現場オントラック渡しで7万5千円と改善しているが、外注費や運送る」（同）見費など諸経費が上昇しているため、利益は微増程度」（同）13年度は鉄骨需要が急増したことから受注は来年どこか再来年のゼネコンは「話もきている」（特約店）はアブの能力確認と堅調。地元物件でも県立中央病院の立て替えや市民プール、学校整備など公共物件や結果的にファブにとっては相次ぎ具体化する見通し。

2年先の製作予約も

「予約がキャンセル」され「来年秋の引き合いが来るといふ混乱もあつた。受注残は3カ月だった。1年先の話があるので鉄骨需要は多少の幅はあっても高原状態から、ゼネコが続く」（大手ファブ）としてファブが連携して受注地元でも、4年後の福井国に当ることが多く、想定外設が出件しているため、具外は少なくなつた」環境が続くという状況だ。（同）

鉄鋼新聞
12/25